

会 議 録

会議の名称	第4回弥富市総合計画審議会
開催日時	令和5年5月22日(月) 午後1時30分～3時30分
開催場所	弥富市役所本庁舎5階 協議会室
出席者及び欠席者	出席者：藤井勉（会長）、入江容子（職務代理）、高谷昇、鬼頭由美子、児玉日佐美、佐藤博孝、榊原進、南谷元尚、井上猛、奥村明彦、伊藤善啓、八木輝治、清水香菜、東嶋とも子、手嶋正章、今井いずみ、鈴木裕一（順不同） 欠席者：伊藤肇章、伊藤恵造、釜田公良（順不同） 事務局：市長、副市長、教育長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、建設部長、教育部長、議会事務局長、総務部参事、企画政策課長、企画政策課職員5名、株ぎょうせい2名（順不同） 傍聴人：0名
会議内容	1 開会 2 あいさつ 3 委員紹介 4 協議事項 （1）改正骨子案（修正版）について 5 その他 6 閉会
会議資料	1 次第 2 資料1 改正骨子案

発言者	会議の経過（議題・発言内容等）
事務局（佐藤企画政策課長）	<p>1 開 会</p> <p>皆さん、こんにちは。</p> <p>会議を始めます前に御連絡させていただきます。</p> <p>本日は、マイクを使う関係上、発言、挨拶等々、全て着席でお願いいたします。</p> <p>当審議会は、弥富市総合計画審議会運営要領において、原則公開することとされており、また、弥富市総合計画審議会傍聴要領で傍聴について規定をしております。本日、傍聴人の方はおられませんので、御連絡させていただきます。</p> <p>それでは、定刻となりましたので、ただいまより第4回弥富市総合計画審議会を開催させていただきます。</p> <p>本日司会を務めさせていただきます企画政策課長の佐藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本審議会は、会議録作成のため録音をさせていただきますので、御了承ください。また、御発言の際は、お手元のマイク操作を事務局で行いますので、スイッチ等は触らず、挙手にてお願いいたします。</p> <p>なお、会議録及び会議資料は原則公開することとし、委員名簿につきましても、お名前、所属、役職は公開することとしておりますので、御承知おきください。</p> <p>続きまして、欠席委員を御連絡いたします。</p> <p>本日、委員名簿3番、伊藤肇章委員、12番、伊藤恵造委員より欠席の御連絡をいただいておりますが、定足数を満たしておりますことを申し添えます。</p> <p>会議に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本日、机の上に配席図、委員名簿をお配りしておりますが、その他、先日郵送にて送付させていただきました資料はお持ちでしょうか。もしお持ちでないようでしたら挙手にてお申出をお願いします。よろしかったでしょうか。</p> <p>本日の第4回審議会におきましては、次第にもございますが、改正骨子案（修正版）について御協議いただきたいと思っております。本日の会議は午後3時30分までとしておりますが、議事の終了をもちまして閉会とさせていただきます。皆様方の御協力をお願いいたします。</p> <p>それでは、次第に基づきまして進行させていただきます。</p> <p>次第の2、あいさつに移ります。</p> <p>始めに、安藤市長、よろしくお願い致します。</p>
安藤市長	<p>2 あいさつ</p> <p>皆様、こんにちは。</p> <p>本日は、第4回弥富市総合計画審議会を開催いたしましたところ、公私とも大変御多忙の中、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。委員の皆様方には、常日頃から、市政各般推進に御支援、御協力をいただいておりますこと、感謝を申し上げます。ありがとうございます。</p> <p>さて、第3回総合計画審議会では、後期基本計画の改正骨子案について、2つのグルー</p>

プに分かれて、未来志向の意見交換を行っていただいたところでございます。

本日は、前回の意見交換で委員の皆様からいただきました意見について、可能な限り反映させていただき、関係する担当課において再度見直しを行ったものを改正骨子案の修正版としてお示しさせていただきます。

この改正骨子案は、後期基本計画に盛り込む具体的な主要事項でありますので、委員の皆様には慎重な審議を賜り、後期基本計画の改正骨子を御決定いただければと考えております。

委員の皆様方におかれましては、どうか忌憚のない御意見、御提言を賜りますようお願い申し上げますとともに、市政の進展のために、変わらぬ御協力を重ねてお願い申し上げます、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくようお願い申し上げます。

事務局（佐藤企画政策課長）

ありがとうございました。

続きまして、当審議会会長より御挨拶をいただきます。

藤井会長、よろしく願いいたします。

藤井会長

皆さん、こんにちは。愛知学院大学の藤井でございます。

審議会も早いもので4回目になります。4回目になっても、私はこの場に着席して、緊張しております。しかしながら、これまでいろんな委員の皆様とコミュニケーション、意見交換をさせていただいて、皆様の顔を見ると、少し緊張がほぐれるようなフェーズになってきたかなと思います。

これまでは計画づくりにおける皆様の御意見を集めるというところから、ここからは具体的な計画づくりに向けて、検討していく段階に入っていかなくとも思います。

先日、4月28日に市役所で市民協働の研修会が行われたという話をお伺いしました。松下啓一先生にお越しいただいて、研修を行ったということで、私も勉強したく、松下先生の著書、幾つかある中で拝読をさせていただきました。

その中に協働の大切さが書かれているわけですが、本の中では、協働が必要な時代になってきたというところが書かれていました。そして、協働を進める上では、大変さがある、そして覚悟がいるといったことも書かれていました。そして、何よりそれを進めていくために大切なことというふうに書かれていたものは、まち自体に価値、魅力があることと書かれていました。

これまでのアンケートの調査の中でも、愛着を感じるかという市民のアンケートの中では、7割以上の方がそう感じると書かれていました。そして、中学校のアンケートでも魅力を感じるというのは、66%の方がそのように書かれていました。そして、もう一点、大事なこととして、お互いを知るといったことが書かれていました。これは審議会の計画づくりの中で、市民のアンケート、ワークショップ、それから、委員の皆様にも再三いろいろな御意見をいただいて、この計画づくりにおける市民の意見というものを大事につくっているなというところから、この協働をつくるまちづくりの中における弥富のポテンシャル

事務局（佐藤企画政策課長）	<p>はすごく高いなと思いながら本を読み終えました。</p> <p>そのような意味で、4回目もいろいろな検討事項を皆さんと進めていければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局（佐藤企画政策課長）	<p>3 委員紹介</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、次第の3、委員紹介に移ります。</p> <p>年度が替わり、委員の皆様、市役所の職員も一部代わっておりますので、ここで新たに委員になられた3名の皆様に、順に自己紹介をお願いしたいと存じます。なお、1分程度、着座にてお願いしたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>では、1番、高谷委員、お願いいたします。</p>
高谷委員	<p>区長会の高谷です。</p> <p>4年前にも、一応区長会のほうから、こちらの審議会のほうに御出席させていただいて、いろいろと意見を述べさせていただいたんですけど、それが今回、4年経ちまして、またやることになりまして、今回は、そのことにつきまして、前回お願いしておいたこととか、そういうことについて、ちゃんと意見が、ある程度は見ていただいたかどうかということを確認したいと思って来ております。</p> <p>特に、弥富市の場合は南北で、道、それからJR、それから近鉄で南北に分断されておるきらいがありますので、その辺の進捗がどうなっているかというのもこの会でよく検討させていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>
事務局（佐藤企画政策課長）	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に、6番、榊原委員、お願いいたします。</p>
榊原委員	<p>名古屋港管理組合企画調整室計画担当課長の榊原と申します。よろしく願いいたします。</p> <p>名古屋港は、皆さん御承知のとおり、非常に広い港でして、弥富市さんをはじめ、飛島村さん、名古屋市さん、東海市さん、あと知多市さんということで、4市1村にまたがる広い港であります。</p> <p>そのような中で、弥富市さんの行政区域におきましては、日本屈指のコンテナターミナル、鍋田埠頭コンテナターミナルがございまして、今も物流の効率化に取り組んでいるといったような状況であります。</p> <p>そのような視点で、私のほうからは、港湾の視点、または物流の視点で、この審議会のほうに参画させていただければなどと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>ありがとうございました。</p>
事務局（佐藤企画政策課長）	<p>次に、8番 井上委員、お願いいたします。</p>

企画政策課長)	
井上委員	<p>こんにちは。海翔高等学校にこの4月から赴任をしております井上と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>報道等でも御承知の方が多いかも分かりませんが、本校は2年後の校地移転に向けて、この春から普通科は募集停止をしまして、福祉科だけが今年度は21名入ってまいりました。全校生徒は129名ということで、今後どのように教育活動を活性化していくのかというようなことが、一つの大きな課題になっていると思っています。</p> <p>私自身は一宮の人間でありまして、これまで弥富市さんとのお付き合いというのはあまりありませんでした。最近、週末ごとに学校の周りを散歩したりとか、お昼御飯を食べたりということで勉強させていただいております。おかしな見当違いの発言をしないように気をつけたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局（佐藤企画政策課長）	<p>委員の皆様、ありがとうございました。</p> <p>続きまして、市役所側ですが、一部の職員の異動がありましたので、部署と氏名のみ紹介をさせていただきます。</p> <p>それでは、総務部長より順にお願いいたします。</p>
伊藤総務部長	<p>総務部長の伊藤淳人と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
柴田市民生活部長	<p>市民生活部長、柴田寿文と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
渡邊教育部長	<p>教育部長の渡邊一弘と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
立石建設部長	<p>建設部長の立石隆信と申します。よろしくお願いいたします。</p>
事務局（佐藤企画政策課長）	<p>企画政策課長の佐藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それから、企画政策課の職員も異動がありましたので、御紹介をさせていただきます。</p> <p>中山主任、廣田主事です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>次第の3、委員紹介は以上とさせていただきます、これからの進行は、藤井会長の取り回しでお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>それでは、次第に従いまして、協議事項の（1）になります。改正骨子案（修正版）についてになります。これが本日の審議事項になります。</p> <p>それでは、事務局より説明をお願いいたします。</p>

事務局（伊藤）	<p>4 協議事項</p> <p>それでは、改正骨子案（修正版）につきまして、事務局より御説明をさせていただきます。</p> <p>資料1を御覧ください。</p> <p>こちらの資料は、表紙に、改正骨子案（後期基本計画に盛り込むべき主要事項）といたしまして、次のページから始まります、具体的な記載内容を1枚にまとめたものとなっております。</p> <p>A3サイズの改正骨子案（修正版）は、前回、第3回審議会におきましてお示ししました案に、2グループで行った皆様の意見交換で出された意見を、全てとはいきませんが、反映させていただきました。それが太字で記載されております。</p> <p>それでは、資料の表紙に戻っていただき、こちらの御説明をさせていただきます。</p> <p>1、計画期間内における社会状況の変化と行政需要等としまして、(1)計画期間ですが、改めてというところにはなりますが、本計画は基本構想が2019年度から2028年度までの10年間とし、その基本構想に基づき実施する具体的な施策の内容を示す基本計画が、前期は2019年度から2023年度までの5年間、後期は2024年度から2028年度までの5年間となっております。</p> <p>(2)前期と後期基本計画における主要な社会状況の変化と行政需要として、以下の3点を掲げました。</p> <p>1点目が、コロナ禍による市民活動抑制からの脱却、新たな楽しい一歩の推進です。新型コロナウイルス感染症の影響により、防災、コミュニティ、文化、スポーツ活動等、様々な市民活動が抑制、停滞せざるを得ない状況となりました。コロナが完全に終息することなく、コロナと共存していかなければならない中、新たな一歩として、楽しい、楽しくというフレーズを前面に打ち出し、市民活動の底上げを図っていく必要があります。</p> <p>2点目は、的確・迅速な情報提供の重要性、パブリシティ活動の強化です。新型コロナウイルスの襲来という未曾有の災禍において、市民自らが正確な情報を収集し、適切な行動を取ることの重要性が再認識され、行政には、これまで以上に市民にとって必要な情報を的確・迅速に提供することが求められております。</p> <p>3点目は、DXの更なる推進、DXの便利さ、安心な市民生活のための各種支援です。近年、社会のデジタル化・DX化が急展開し、市民生活が大きく変容してきており、全ての市民がデジタル化の恩恵を享受できるよう、行政のDX推進が大きな課題となっております。その一方で、市民が平等に行政サービスを受けることができるよう、情報格差の解消を図る必要もあります。</p> <p>続いて、その下、2、後期基本計画期間で取り組むべき主要な施策といたしまして、7つのカテゴリーに分けて整理いたしました。</p> <p>1つ目は、市民が参加したくなる楽しいイベント等の開催です。これまでの型にはまったものだけでなく、土地改良施設や避難所見学等をはじめとしたイベントやゲーム等により、児童・生徒を含む市民が楽しく防災を学べる環境をつくること、また、2026年開催のアジア競技大会等を契機としたスポーツ振興、さらには、市民が主体となり、市内におい</p>
---------	---

てマルシェ等を開催することが、地域活性化に寄与すると考えられます。

2つ目は、市民の知りたい情報をパッケージにした情報提供です。子育て情報やコロナ情報等、市民が知りたい情報をパッケージ化して情報提供を行うこと、また、SNSやWEBを活用し、迅速かつ的確な情報発信が求められます。

3つ目は、DXの推進と個別の相談に寄り添う、便利さと安心の両立支援です。行政のDX推進、生徒・児童のいじめ相談体制の充実、なんでも相談窓口の設置、個々のニーズに対応した子育て支援、民営化等により多様な選択肢のある子育て支援事業の充実・啓発が必要です。

4つ目は、子ども関連施策の一体的推進です。こども基本法が令和5年4月に施行されたことに伴い、子ども関連施策の一体的推進を図るため、組織体制を整備する必要があります。また、学校再編による教育環境の充実、子どもが主役となる図書館の充実を図る必要もあります。

5つ目は、高齢者が外出したくなる楽しい環境づくりです。市民活動や高齢者サロンへ参加することのほか、就労や多世代交流等による生きがいづくりを支援し、それと同時に、外出に役立つ公共交通の再編・効率化が求められます。

6つ目は、産業・農業振興、賑わいづくりです。弥富駅周辺のまちづくり、50万円の新規起業支援、港湾地域を中心とした企業立地の推進、農業の担い手不足を解消するための人材確保が重要です。

最後は、多様な主体との協働、行財政改革です。地域課題の解消や地域の持続的な発展のためには、企業や大学等、多様な主体との協働が必要です。また、まちなか交流館2階の市民活動スペースの設置、人材育成、組織風土改革、民間活力の活用等の行財政改革、パブリシティ活動による情報発信の強化、このような取組が求められます。

主要事項についての説明は以上となりますが、次ページ以降の改正骨子案（修正版）もおおむねこのようなことを中心に作成しております。

なお、策定方針にもございます、新型コロナウイルス感染症の影響やデジタル化の進展をキーワードに、市長公約の未来像を踏まえ、人口減少に歯止めをかけるとともに、まちの賑わいを創出する取組を中心に、委員の皆様からいただいた御意見や市民アンケート、市民ワークショップといった市民参画での意見、それに加え、市長公約や前期基本計画の評価、時代潮流等、様々な方面からの要素を取りまとめさせていただきました。説明は、以上となります。

ありがとうございます。

お配りしました資料のA3のところに、これまでたくさんの御意見をいただいたものを集約していただきまして、今、御説明いただいたような改正骨子案の重要な要素をまとめていただいた御説明かと思えます。

それでは、ただいまの説明に際して、委員の皆様から、御意見、御質問等がございましたら、お願いをいたします。

鈴木委員、お願いします。

藤井会長

鈴木委員	<p>前回、私、欠席をしまして申し訳ございませんでした。</p> <p>改めてなので、前回の中で話題になっていたら申し訳ないんですけど、念のため、ちょっと確認ということで、一つは前回御説明されたであろう、今回の計画策定における市長からの未来像、その重点項目というのを、念のため、もう一回お聞きしておきたいです。それを実現するための計画であるということで、先ほども御説明があったと思うので、そのところをお聞かせいただければと思います。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>前回グループに分かれての討議の中でも最初にお示しをいただきました市長の未来像というところですね。</p>
鈴木委員	<p>議事録から読み解くと、この選ばれるオンリーワンの弥富市とかですかね。</p>
藤井会長	<p>少々お待ちください。恐らく配られた資料があったかと思いますので。前回グループ討議に入る前に御説明いただいた資料って載っていますでしょうかね。</p> <p>市長、お願いします。すみません。</p>
安藤市長	<p>弥富市の未来像として、私が掲げております、選び、選ばれるオンリーワンの弥富市、そして、2つ目として、デジタル社会と暮らしやすさの調和のとれた弥富市、3つ目として、みんなで創る弥富市でございます。</p> <p>このことを受けまして、弥富の未来に向けたお約束といたしまして、6つの項目について、令和5年度予算化をしているところでございます。</p> <p>その1つ目といたしまして、命を守る土地改良事業の推進、これは継続事業でございます。</p> <p>次に、弥富市発展のための駅周辺まちづくりの事業等の推進、これも継続でございます。</p> <p>3つ目といたしましては、デマンド交通の導入に向けた社会実験等、新規でございます。</p> <p>それから、4つ目、市民なんでも相談窓口の設置運営、新規でございます。</p> <p>5つ目がスクールカウンセラーの相談体制の充実、これは継続事業でございます。</p> <p>そして、6つ目でございますが、中学入学お祝い金支給等、子育て支援ということで、これは新規でございます。</p> <p>先ほども担当から話がありましたが、令和6年度に向けましては、新規出店等支援や魅力発信による賑わい創出ということで、新規事業者に対しまして、50万円上限で支援をしていこうという新規事業を立ち上げております。</p> <p>以上でございます。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>総合計画の骨子案の中では、今お話しいただきました市長の未来像を含め、様々な御意見からまとめたのがこの骨子案になっているかなと思います。</p>

鈴木委員	<p>鈴木委員、よろしかったでしょうか。お願いします。</p> <p>すみません、今日、断っておいて申し訳ないんですが、2時半過ぎにちょっと失礼させていただきますので、申し訳ございません。なので、ちょっと先に意見だけ伝えさせていただきます。</p> <p>まず、資料1の計画の重点項目の中で、ぜひ視点として持っていただきたいのは、DXのさらなる推進という部分で、弥富市としても、いよいよDXをしっかり推進していくんだと、ここで覚悟を決めて表明をしていただいたと思っていますので、その辺りの進め方、考え方として、DXって、本来IoTを使って、ツールをうまく使いこなしましょうということだけじゃなくて、結局その仕組み自体をもっと合理化、新しくしちゃうというところが肝なところなので、単純に目先の情報化、IT化だけを目指さないでいただきたいと。</p> <p>例えば、申請書がウェブで申請できますよみたいな、そこで終わりではなくて、やっぱりどうしたらその仕組み自体がもっと簡単にシンプルにできるか。</p> <p>踏まえて、さらに、市役所行政の中でもDX化を進めることで、自分たちの仕事をもっと楽になる、早くなる。楽しんでください、DXを使って。</p> <p>なので、そういった視点で、今まで書類と格闘しながら、準備しながら、ものすごく時間かけて、手間かけてやってきたことをDXとして、より合理化して、何ならその作業を省けないかという視点をもっと持っていて、もちろん市民に対しては、より便利な市役所というか、付き合いやすい市役所というところをぜひPRしていただいて、そういう仕組みをつくっていくんだという心構えですかね。</p> <p>単純に、IT化、IoT化すればいいということじゃないことをお願いします。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>高谷委員、お願いします。</p>
高谷委員	<p>弥富市は、はっきり言って高齢化しておるわけですね。それで、DXも私は取りあえずやれるんですけど、そういう人たちの積み残さないような方策も考えていただかないと、はっきり言って、もう80とか、その辺で独り暮らしの方も結構おられますので、その辺のことも、こちらのIT化の波から逃れてまっておるもんで、うちの近くでも、まだガラケーしか使えないとか、そういう方もたくさんおられますので、その辺も市として方策をやる時に、少し考えていただくことも入れてほしいと思います。よろしくをお願いします。</p>
藤井会長	<p>鈴木委員、お願いします。</p>
鈴木委員	<p>すごく、その視点が確かに大事で、弥富市の考え方としては、どこか、いろんな市民からとか、立場を超えて意見されるのは、多分そういう高齢者の方がIT化になかなか踏み出せないから、そういうところを配慮してくれよと言われると、結局、IT化、DX化はやっぱり勝手に進めるわけにはいかんなど。やり方を、今は従来どおりのものもやりますから</p>

	<p>というところで、結局変わらないままずっと来ているのが現状だと思うんですよ。</p> <p>なので、考え方も、そこも変えてもらって、もちろんIT化を進めながら、取りこぼさないための施策として、単純に紙のやり方とか今までの既存のやり方も残しますよということと終わるんじゃないでなくて、そういった取りこぼされそうな方々、高齢者だけじゃないですよ。私も既にもうチャットGPTとか、よく分からなくなってきましたから。</p> <p>なので、世の中はどんどん変わっていきますので、そういった中で変わっていく世の中に対して、柔軟にとか、積極的に関わるし、分かるということにはしておいてもらいながら、それでも取りこぼされる方のためにもきちんと伝えるやり方を、どうやったら、それが使いこなせるようになるかをアドバイスというか、指導というか、手取り足取り、スマホが使えない高齢者がいれば、もう何度となく、一緒にスマホが使えるようにお手伝いする機会をつくる。</p> <p>それでも使わん、わしは知らんという人は、なかなか行政サービスに恩恵が受けにくくなりますよという、それはもう本人の選択になってくるので。</p> <p>ただ、受皿としては、そういった、なかなか付いていきにくい方々に対しても、いろんな手法でそのサポートをする体制としてはあってほしいと。</p> <p>それが既存のやり方を残すんじゃないでなくて、新しいやり方でトライしてみたくなる、しかも、キーワードは楽しいが今回入ってきましたから、楽しく取り組めるような仕掛けをぜひやっていただいて、それだったら、ちょっとやってみようかなみたいな。高齢者の方々も、いや、わしは分からんでいかんわってところを、これをやったら、面白いし、ネタになるし、何なら何かうまい効果があるというのを、具体的にメリットが分かるように、そういう方たちに伝わるような仕掛け。</p> <p>言っているのはすごい難しいことだと思うんですけど、視点としては、そういうことを思ってやってもらって、ついていけない人がいるから、しょうがないよねと言って、既存のやり方を残さなきゃいけないんだという、それはもう本当に、2通りのものを無駄に残すということになるので、新しいことをやりながら既存のものって。</p> <p>それは一番効率が悪いことなので、DXとは全然離れていくので、そこは本当にしっかりと、よく考えていただきたいところです。</p>
高谷委員	そこが難しいんですね。
鈴木委員	難しいですけどね。
高谷委員	<p>自治会をやっておっても、その辺でやっぱり、過半数がもうどんどん老人になってきておるものだから、そうしたら、やっぱり回覧で回すしかないんですわ。</p> <p>はっきり言って、タブレットか何か全部配って、そうすりゃ行政サービスも簡単に行くんだけど、タブレットとか、そういうのも、若い人はそれでいいと思うんだけど、私は年やけど、取りあえずやっておるもんで、何とかついていっておるんですけど。</p> <p>その辺がちょっと難しいところだから、やっぱり行政のほうでも、残す、ちょっと無駄</p>

	<p>にはなるんですけど、まだしばらくこの形態というか、昔の3Gの時代の人のも、ある程度は残せるようにして、今の状況としては、残してもらわないと、平等の観点から、おかしくなりますので、市のサービスにしてもね。</p> <p>だから、その辺、私としても、そういうふうにやったほうがいいとは思うんだけど、ちょっとまだ、ここしばらくは難しいんじゃないかなと思います。</p>
鈴木委員	<p>もちろん急にはできないと思うので、一步ずつです。だから、もうほんの小さい変化からちょっとずつちょっとずつやって、仕掛けてほしいです。</p>
高谷委員	<p>少しずつ変えていくしかないと思うんだけど。</p>
鈴木委員	<p>それで成功体験を積んでほしいんです。本当に小さいところからでいいので。ただ、諦めないでほしいということです。</p>
高谷委員	<p>そうすると、市のほうの効率化もできるものですからね。</p> <p>ありがとうございます。</p>
藤井会長	<p>貴重な御意見ありがとうございます。</p> <p>今回の骨子案のところ、上2つに書いてありますような、的確・迅速な情報提供の重要性という部分、これはいろんな多くの意見から出てきた、やはり的確な情報をしっかり伝えなくちゃいけないという部分において、より、先ほど御議論されていた、情報格差によって届かないということ解消していく必要が大切になってくるんだろうと思います。</p> <p>そういう意味で、DXのほうに書いていますけれども、情報格差の解消を図るといっても、もちろん大事なポイントとして書かれておりますので、そこは、一步ずつといいますが、慎重に届くように考えていくということが必要だと思いますし、DXのところは、鈴木委員もおっしゃったような、デジタルトランスファーで変革を起こす、デジタルの分野になってきますので、ある意味、利用者が意識しなくても、裏側でしっかりと情報が制御されている状態になってくるかなと思いますので、そこは、逆に言うと、利用者の方はそうハードルはなく、取り組めることも、例えばモビリティの話であったりというのも、DXの1個の取組になってくるかと思いますが、そういうふうに変わっていくのかなと思いました。</p> <p>貴重な御意見ありがとうございます。</p> <p>そのほか、委員の皆様から御意見等ございましたら、お願いをいたします。</p>
高谷委員	<p>何でもいいですか。</p>
藤井会長	<p>はい、もちろんです。</p>

高谷委員	<p>道路交通網の充実ってところ、ありますけれども、5-2の。</p> <p>こちらで、一応、一宮西港道路の早期整備推進と書いてあるんだけど、現行計画において、早期の事業化に向けて、国や県等の関係機関に対し要望していると書いてあるんだけど、この話はもう30年も前からやっておる話で、その辺のことが、具体的にはどの辺に進捗しておるのかというのを、道路か市長からちょっと聞きたいなと思います。</p> <p>弥富の場合、とにかく南北で分かれていますので、その辺をつなぐという意味でも、それから港湾からの物流のことを考えても、あの道路は早くやったほうがいいと思います。</p> <p>それで、その辺をちょっと市長のほうから。</p>
藤井会長	<p>安藤市長、お願いします。</p>
安藤市長	<p>5-2の道路交通網の充実ということで、一宮西港道路の早期整備促進についてということで御質問いただいたところでございます。</p> <p>この事業につきましては、名神の一宮ジャンクションから湾岸の弥富インターまでぐらいつなぐ道路ということで考えていただければいいんですが、将来的には、三河のほうまでつなげていきたいという大きな構想もあります。</p> <p>そういった道路の、今、調査業務を行っております、恐らくですが、今年度にはそのルートが決まってくる。そこまで今進んでいるところでございます。</p> <p>その後には実際に現場のほうへ入っていくんですけど、大変軟弱地盤の地域ですから、想像をはるかに超える工事費がかかるということで、国のほうもしっかりと調査をして、またルートを決めていきたいということですから、また、その段階になってまいりましたら、こういう審議会等々では御説明をさせていただきたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。よろしかったでしょうか。</p>
高谷委員	<p>それと、もう一ついいですか。自分のところの近くのことなんですけど、県の広域農道がうちのほうでできたんですけど、あれからうちのほうの団地の前をずっと通っていく道が、今度、県の広域農道ということになっておるらしいんですけど、県の職員さんとお話しして、そう聞いておるんですけど、前はあの道路は市の道路ということだったんですけど、約8年前にその辺の話があって、計画しておったんですけど、ちっとも前に進んでいかないんですけど。</p>
藤井会長	<p>安藤市長、お願いします。</p>
安藤市長	<p>今のお話でございますが、広域農道の愛西市のほうへ向かっていく道につきましては、管理は市でございます。市道です。ただ、広域農道としてのルートの中にその市道が含まれているということですから、整備も基本的には市で、市の部分は市になってまいります。</p>

高谷委員	造るのが市になったいうて聞いたんですけど。
安藤市長	はい。市です。
高谷委員	その辺のやつは、いつ頃またやっていただけるのか。
安藤市長	今年度買収して、少し入っていきますので。
高谷委員	ちょっとした拡幅はやっていただける話は聞いておるんですけど。
安藤市長	はい。進めてまいります。
高谷委員	その辺ちょっとよろしくお願いします。 それと、もう一ついいですか。市長、もう一ついいですか。 4年前の審議会のときに、一応駅舎を造るということで話が進んでいって、自由通路ということで、その辺のことは、市がお金があるんだから、それはいいだろうと思ったんだけど、東西の踏切、特に西側の踏切の整備とか、その辺も、今回やるのに合わせて、随時やっていただきたいということは言っただけなんですけど、その辺の話はどうなっておるのかなと思って。
藤井会長	お願いします。
安藤市長	今現在、市のほうではJR名鉄の自由通路整備を進めているところでございます。その前段の中で東西踏切をまずは拡幅してはいいんじゃないかというようなお話をいただきました。 ただ、その踏切、東西共々、JRの構内踏切でございまして、普通の複線ではなく、3本、4本とあって、線路が通っているところの踏切をなぶるということは大変ハードルが高いことで、なかなか鉄道側が許可を出さない。 そういった中でこれまで来ておりまして、何とか解消するために自由通路ということを選択させていただいたところでございます。 以上でございます。
高谷委員	それと、もう一つ、今回の駅舎をやるのに、名鉄の線路も全部移動するわけですよ。その部分にかなり金を渡しておるんだもんで、名鉄とJRとかその辺も、ある程度は弥富市に協力していただいてもいいかなと私は思うんですけど、その辺ちょっと市長のほうからちょっと強引にでも、何か押して、ちょっと早めにやっていただきたいなと思います。 それと、もう一つ、あとほかにも、国のほうから、危ない踏切ということで、弥富のほうは3本指定されておるはずなんですけど、その辺のことはどういうふうにお考えですか。

安藤市長	<p>危ない踏切は承知しております。</p> <p>一つが、弥富北中学校のところの鎌倉の踏切でございますが、あれは改修をしましてまいります。今実際に設計のほうで動いていますから、ちょっと時間はかかりますが、鉄道のことですので、進めてまいります。</p> <p>また、東西踏切のほうにつきましては、先ほども申し上げましたとおりでございますが、何とか、できたら鉄道会社でやっていただくのが一番いいんですけど、それも難しいかと思いますが、粘り強く要望はさせていただきたいと思います。</p> <p>以上です。</p>
高谷委員	<p>それともう一つ、いいですか。弥富市に 500 橋ほど、2 m 以上の橋があるんですね。</p> <p>この橋も、一応弥富市さんのほうで調査はしておるんですけど、下に鉄筋がもう出て、赤さびの状態になっておる、そういう橋梁もたくさんあるんですね。一応コンサルのほうから、付度してもらったかどうか分からんですけど、経過観察というのに入っておるんですね。</p> <p>だけど、こういう古いものは、高速道路のほうも今、床版の改修とかやっていますけど、早急にやっぱり弥富市でもよく目をつけておいて、直さないといかんと思うんですね。</p> <p>それと道路関係がとにかく交錯しておって、はっきり言って、箱物というか、いろんなものを造るのはいいんですけど、そこまで行く道ができていなければ、それはもう宝の持ち腐れになりますので、もうちょっと道のほうを整備していただきたいなど。</p> <p>それと、弥富市内の草刈り、その辺も、草とかできていけませんので、県の道路だとか、私、直接行ってお願いしておるんですけど、やっていただいたんですけど、市の道路に関しては、もうちょっとお金をそこへちょっと入れていただきたいなどと思いますので、よろしくをお願いします。</p>
安藤市長	<p>ありがとうございました。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>高谷委員がおっしゃった道の重要性、生活の上での交通の重要性というところを御指摘いただいたかなというふうに思います。</p> <p>細かな政策、事項については、また、この骨子案を基に、これから議論をしていくところでございますので、貴重な御意見ありがとうございました。</p> <p>それ以外、改正骨子案のこの内容につきまして、御質問、御意見等ございましたら、委員の皆さん。</p> <p>八木委員、お願いします。</p>
八木委員	<p>すみません、私、産業界ということで、農業なんですけど、ちょっと農業とかけ離れて、冒頭、一番最初のほうのお話に戻りたいんですけど、高齢化という話の中で出ていましたが、逆に 20 代とか 10 代後半の若い子たちが、この先、DX だとか、市民が参加したくなるだ</p>

とか、今後、弥富市を背負っていく方々が、今回でもマイナンバーなんかの関係で、付加価値、要はポイントがつくからやろうと。でも、それでなければ、全く興味がないと。

なぜこんなことをやらなくちゃいけないというような 20 代の前半の子とか、私の娘、息子、その辺の同級生たちも、何かもらえるからやろうというところで、今後、この先そういった方で、若い世代が弥富市に住んでいて、例えばそういう制度だとか、いろいろ活用して、本当にやっていきたいのかというような、させられている感とか、危機感とか全く持っていないものですから、そういった中で、デジタルには多分強いと思うんですが、良さというのが全く伝わっていないのかなと。

よく題材に挙げるなら、選挙もそうなんですが、誰に入れていいか分からないと。別に興味がないという弥富市の中の選挙に対しても、当然、市議会、県議会、全部そうなんですが、弥富市を良くしようという概念が、やっぱり他力本願で、あんまり若い子たちが動かないなというのは、今回見ている、改めてそう思いまして、そういった形では、選挙は別としてですが、若い世代が今後本当に弥富市を良くしていこうだとか、そういう気持ちで行って、いろんなものに参加できるようなメリットというか、そんなのを見い出していただけると、すごく面白いのかなと。

例えば、広報なんかも正直見ていないです。若い子たち全然見ていないです。ああいったことも、情報の発信も、ツイッターとかもあると思うんですが、インスタグラムだとか、いろんなものの力を使いながら、より意図的に入ってきて、見させるような、興味を持たせるような、そういう仕組みをつくっていただけると、大変その子たちも興味を持つのかなと思って。

どうしても目が、この辺ですと、名古屋市へ行こうだとか、近隣の友達が遊んでいるところに行こうというところで、市が何かやろうとあんまり興味を持っていない感じがすごくあって、こういうマルシェ、イベントをもしやったら、その辺の若い子たちが、面白そうだ、来よう、と足がどこまで出向くのかなというところもありまして、市のアピールもしながら、その年代にもメリットが出せるような仕組みがあると。高齢化は高齢化の問題、若者は若者の問題が 2 つあるのではないのかなと今感じました。

藤井会長

八木委員、ありがとうございました。

改正骨子案の中に出てきているワードに楽しいを入れていただいています。この辺りが、コロナが明けて、もう一度再開したときに、八木委員がおっしゃった大事な視点である、若者がどれだけ市民活動ですとか、こういったところに参加する要素に、楽しさという部分が大事になってくるので、このワードが入ってきているのかなと思います。

ぜひほかの委員の皆様からも、この辺り、若者の参画という部分で御意見を賜ればと思います。

今井委員、いかがでしょうか。今ちょっと目が合いましたので、御発言いただければ。

今井委員

先日 4 月 29 日に、名古屋競馬場で金シャチフェスティバルというものを開催したんですが、そちらで私も運営スタッフをさせていただいて、結構お客様はこういうイベント

を待っていたというぐらい、皆さんいい顔をされて、わくわくしながら参加されていたんですけど、大体総勢7,000人ぐらい、お客様はいらっしゃいました。

私たち、想定3,000人って思っていたんですけど、それ以上にたくさんのお客様がお見えになられて、私たちもすごいテンションが上がりましたし、その中でもやっぱり若い人たちの力、お客様は大体30代で、小さいお子様を連れた親子の方だったり、今回、韓国の俳優さんをお呼びしたので、そのファンの方がちょっと高齢の方とかも、結構全国から、遠くは福岡からいらっしゃっていただんですけど、全国からちょっと弥富市も意識してもらえたのかなというのも、よかった点でした。

若い子たちにそのときすごい協力いただいて、運営スタッフのメインではなかったんですけど、当日スタッフとして6人ほど、高校生、大学生に来ていただいたんですけど、テントをちょっと風が強くて、途中で畳んだりとかして、そのときも臨機応変に対応してもらって、私たち、若い子たちのイベントに協力したことなかったんですよ。なのに、こんなに協力してもらって、私たちがすごい恥ずかしくなるぐらい。

若い子の力って、弥富でもまだまだあるんだなというのを再認識させられたのと、やっぱり若い子たちがこうやって意識を持って、弥富のためとか、人のために盛り上げようというのは、やっぱり主体性を持たないと、そういう気持ちにならないなと思って。

最近、内申書をよくするために、ボランティアをやっていますかという、やらされ感のあるボランティアというので、何かやっている若者はちよくちよく見るんですけど、自分がやりたい、楽しみたいという気持ちになって、イベントとか、ボランティアって楽しまないで長続きしないですし、多分教育の面でも主体性を持ってやれることって、たくさんあると思うんですよ。

なので、先生方は多分忙しいと思うので、私たちみたいな大人を使っていただいて、主体性になるようなイベントとかも一緒に開催できたらなと思いました。

あと市民協働で、今回すごく弥富市さんに御協力いただきまして、どっちかという、もうせざるを得ない感があったかと思うんですけど、後援をいただいて。後援いただくというのは、普段やっぱりテントを貸していただいたり、机や椅子を貸していただいたりって、そこまでが後援という線引きをされていたと思うんですけど、今回ちょっと前日スタッフが3人しか動けなくて、3人でどうやってテントを立てればいいのかってすごい悩んでいたところ、市民協働の藤井課長をはじめ、皆さんに御協力いただいて、本当に助かりました。

市民協働ってこういうことなんだなというのを肌で実感したので、これから市民団体と市役所と一緒に、協賛してできるイベントがあればいいなと思います。強く願います。お願いします。

以上です。

ありがとうございます。

少し御質問させていただければと思いますけれども、金シャチフェスティバルで若者たちが参加した要因といますか、きっかけづくりといますか、あるいは主体性を持って

藤井会長

<p>今井委員</p>	<p>関わらせていた要素みたいなところはございますか。</p> <p>そうですね。もともと持っているコミュニティというか、私と若い子で、主体となっている子がいるんですけど、その子と、本当に個人的にお願いをし、当日何人来れるかというの。</p> <p>若い子たちって、やっぱり足がないので、もう当日バスでお客様と一緒に来ていただいて、そこからのスタートだったんですけど、そこからバスの弥富駅の最終まで一緒に手伝ってくれたり、途中雨がすごい降ってきたんですけど、もう一緒になって、雨に降られながら手伝いをしてくれて、逆に親としては風邪を引いていないかなとか心配になるぐらいやってくれたんですけど。</p> <p>本当に主体性、そのリーダーの子がやっぱり人を引っ張る力がすごいあるんですよ。その子自身ちょっとひきこもりだったんですけど、ひきこもりだった子たちに声をかけて、ひきこもりだったというか、ひきこもりがちな子たちに、気持ち分かるよって言って、もっとこういうことをすると、僕も大変だったから、こういうふうにとると楽しいことがたくさん待っているよみたいな感じで、多分引っ張っていつているんだなと思って。学校だけじゃない世界をその子は見せてくれる。そういう存在なんですよ。</p> <p>なので、なかなか、そういう子を育てるのは難しいかもしれないんですけど、何かやっぱり楽しいをテーマに主体的になれることってたくさんあるんじゃないかなと思いました。</p>
<p>藤井会長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>若者の中でもキーマンになって活動できる人材を発掘していく、つながっていくということの大切さがあるのかなと思いました。</p> <p>すみません。ここのテーマで、よろしければ、井上委員、少し、高校生というところも含めて、御発言いただければと思います。突然すみません。</p>
<p>井上委員</p>	<p>今おっしゃっているキーワードで主体性というのがあると思いますけれども、多分今、文部科学省が主体性の育成を掲げて、授業を改善したりとか、あるいは学校教育全体の中で、そういったことを目指して、主体性を持った形で卒業して送り出すということをやっております。</p> <p>課題として、これまで、子供たちの将来のことを考え過ぎるあまり、学校は与え過ぎていた部分があります。30年、40年、我々が子供の頃、あるいはもうちょっと前だと、もう少し地域の力を借りながら、例えば地域のお祭りの中で、年長の方から子供たちがいろんなことを教えてもらってということがあったと思うんですけど、そういったものがだんだんと失われてきて、今のようになっているのかなと思いますので、以前あったような地域の力、あるいは我々から言うと、学校外部の教育資源を活用するという言い方をするんですけど、そういうことができるといいのかなと思います。</p> <p>以上でございます。</p>

藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>学校以外での地域の力の中で若者たちの力が発揮できる場所は、私も大学でそういう立場で関わらせていただいておりますので、たくさんあるなと思いました。</p> <p>入江委員、お願いします。</p>
入江委員	<p>すみません。ちょっと発言させていただきたいと思います。</p> <p>その若者の主体性を大いに活用していくことについて、私も全くもって賛成でして、例えば、もう数年前になってしまいましたけれども、私の担当しているゼミで、丸ごと弥富市さんと協働させていただいたときがありましたけれども、その折に、ゼミという枠でも、大学という枠でもそうでしたが、市の広報誌の中で、一つコーナーを学生に丸ごと担当させていただいて、学生が自ら取材をして、例えば防災に関するようなテーマでやっていたけれども、あちこち取材をして、写真を撮って、記事にさせていただくというのをやりました。</p> <p>非常に彼らにとっても重要な意味を持つ活動だったんですけれども、彼ら自身も、それを読んでくださるような同年代の方々にも非常に訴えかけるような取組になったんじゃないかなと思っています。</p> <p>今、若者に関する政策というのは、行政の中でもミッシングリンクだったとだんだん気づかれてきておまして、なかなか子供に対する政策と、それから、大人に対する政策の間でつながっていなかったんじゃないかと分かり始めてきていて、この近隣でしたらば非常に有名な取組があるんですけれども、新城市の若者会議ですね。</p> <p>新城市さんでは若者の力、若者といっても、割と幅広く、35歳ぐらいまでを想定されているんですけれども、若者の力を借りて、市の活性化ですとか、いろんな気づきというところ、また、若者自身への主体性をつくってもらうということで活動されていて、非常に全国的にも注目されている取組です。</p> <p>やはりまちに対して、すごく活力を与えてくれる、若い人たちが一生懸命考えて、意見を述べて、それを例えば、首長ですとか、幹部が非常に一生懸命聞いてくださって、いいものについては、実現させようと前向きになってくださっているというのは、本当に若者にとっても意味を持つ活動だと思いますので、そういったところも、これから見据えていかれてもいいのかなと聞いていて思いました。</p> <p>以上です。ありがとうございます。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>若者であっても、ある程度の責任を持ちながら行動できるということが、主体性ですとか、自らやる力を育むのかなと、入江委員のお話を聞いて思いました。</p> <p>鈴木委員、お願いします</p>
鈴木委員	<p>先ほどの若者のところの件で、ヒントになればというか、こんなこともありましたのでということで。</p>

私、十四山地区コミュニティなんですね。先週、十四山地区の、それまで運動会をずっとやってきて、コロナになって、やはり運動会とか夏祭りとかが一通り中止になって、なかなかできなかったというところで、コロナが落ち着いてきて、いざ、やろうといったときに、運動会として、そのまま復活するというのは、今の話にずれる部分もありますけど、地域の成り手がいないというか、役員の成り手がいない。子供会も福寿会も地区によっては解散している。

運動会を、各字で選手を出そうと思ったら、その役になっている体育委員、体育部会の役になっている方が必死こいて、選手を集めなきゃいけない、家族総動員しなきゃいけないみたいなのが、もうコロナの前からちょっとあって、多分各コミュニティ地区、人口の少ない地域はもうそういうことになっているんだと思うんですけど、それで、どうするかといったときに、コミュニティの事務局の方がすごく知恵を絞っていただいて、もう運動会は運動会で、準備するのはもう大変だし、役の方に負担が大きいので、もうやめよう。

代わりにというので、お試しで知恵を絞った中で、負担がそこそこ少ない。考え方としては、もうコロナでできなくて、やらなくて済むということを知っちゃったから、このまま何もやらないというのも一つの選択肢。予算も使わないし、いいんですけど、ただ、そうなったとき、本当にそれでいいのかは、関わってきた方、地域の皆さん、志ある方にとってはやっぱりちょっと疑問がつくところで、実際この弥富市の重要課題である防災の面からしても、いざ何かあったときに地域住民が助け合える、自助できる、共助できるという中で、顔が見える関係というのは常に築いておくべきだろうと。

そのきっかけが、普段から年1回ある運動会であり、夏祭りであり、そこで会話は交わさなくても、何となくこういう人がいるとか、近所付き合っ、連れ立って参加するとかの関係性ってすごく大事ですよという中で、運動会をやめるのは選択肢にないですよって。

中でも考えてもらったのがクイズウォークラリーというので、企画を練って、それだと、当日準備もそんなに要らない。事前準備もそんなに要らない。メンバーの負担なく、できそうだねと企画がされて、実際やるところだったんですけど、ただ、結局、当日雨で中止になったんですね。

もともと計画としては、雨だったら、やっぱり歩けないので、中止というのは決まっていたんですけど、そこでもまた事務局さんが知恵を、柔軟に考えてもらって、スポーツセンターのアリーナの中で、室内競技で、モルックとカーリングの部屋版のカローリングを急遽準備して、やったんですね。

そのときに中学生のボランティアさんが、多分有志で集っていただいたと思うんですよ。十四山中学校のボランティアで、クイズウォークラリーの運営を手伝うことはもともと予定になっていて、当日も集まっていたので、その子たちにも手伝ってもらって、室内のレクリエーションというか、競技や体験の運営を一緒にやったんですよ。

何か聞くとよると、やっぱりボランティアに参加すると、内申がちょっとよくなるみたいな、印象がよくなるという期待もある。実際そう言われているわけではないけれども、期待があるだろうと。ただ、それでもいいと思うんですよ。何かしら参加するきつ

かけを学校側として否定するんじゃなくて、積極的に送り出していただいて、個人にとっては、そういう目先の利益を得ようと思って参加する考えもあるでしょうと。

ただ、実際体験してもらおうと、やっぱり中学生のみんなもすごく面白がってくれたんですね。競技として、モルックをやってみたりとか、カローリングを手伝ってもらったりとか、空いた時間に自分たちもやってみて。そのイベント自体を彼らがしっかり楽しんでくれたので、そういう機会をたくさんつくる。

子供だから、結局建前ではなかなか動かないですよ。主体性といったって、大事なことからとって、頭でずつと言っても、なかなか分からないですよ。だから、何かしら、どんな小さなことでも、言い方は悪いですけど、分かりやすいエンジンがあって、それを求めて行ったんだけど、結果やってみたら、すごくつながりができて、そのこと自体をよかったというか、前向きにポジティブな印象で帰ってもらうという。

その繰り返しをすると、より子供の年代の頃から、まちのことにいろいろ関わっていくのが当たり前になっていくのを醸成できるんじゃないかなと。

体育部会も実際そうで、大人のほうも、雨が降ったらすぐ帰れると思ったのが、結局室内でやるんだみたいになって、何となく、最初乗り気じゃない中で、わらわらと始まっていたんですけど、やっぱり大人の部員の方もやってみたら楽しいし、実際参加してもらって一般のもともとウォークラリーをやる方が、雨なので中止なんだけど、よかったらやりませんかと言って、やってもらったら、その参加者の方々もすごく喜んで楽しんでくれているのを目の当たりにすることができて。

だから、やっぱり体験がすごく大事だなと。やってみたらすごく面白かった、うれしかった、喜んでくれたと。そういう機会をより増やしていくのが大事だなと思うので、杓子定規の、その役だからやらなきゃいけないのはどうしてもあるんですけど、それだとしても、その結果として行ったイベント自体がすごく楽しいものであれば、それはまた関わりたいなとか、やっていきたいなと思ってもらえるんじゃないかなと。

だから、決して理論武装で、正しいことですから、ぜひ協力をとって大体人は動かないので、もっと面白そうとか、楽しそうだということを前面に出して、関わり具合を、機会を増やすみたいな。

なので、今回はその十四山中学校でボランティアとして送り出していただいた方、学校側の配慮としては非常にありがたい。

ぜひそれをもっと積極的にやってもらったらいいし、海翔高校さんも、多分かつては健康フェスタのときには必ず福祉科の方々がブースを持ってやっていたり出展されていたので、やっぱりそれでいろいろ市民の方と関わりとか、交流があったりしたので、そういうときもぜひ、コロナで健康フェスタはなくなってしまいましたけど、別の形で高校生の福祉科さんが関われるような場面を、そのためのイベントをやるというよりは、いろんなイベントがある中で、あちこちから関われるところをあえて用意しておくみたいな場を提供するような格好でいいんじゃないかなと思います。

以上です。すみません、長くなりました。

藤井会長	<p>ありがとうございました。 高谷委員、お願いします。</p>
高谷委員	<p>私、今、白鳥コミュニティの推進協議会の会長をやって、今回、盆踊りを5類になりましたので、やることになってはいますが、その辺でいろいろ話もしておるんですけど、先ほどからずっと聞いておったんですけど、はっきり言って、今どきの子供はやっぱり自分の興味のあることしかやらないと思うんですよ。興味のないことはもう一切横を向いておるもんでね。大体、自分の子供とか、そういうのも見ておったけど、大体そういう感じになるもんで。</p> <p>そうすると、興味のあることは自分からやります。それが主体性ですから。それで、小さいコミュニティをたくさんつくっていただくような補助を、大人から助言とか、市から助言とかいただいてやっていけるようにすると、その小さいコミュニティがまたくっついて、だんだん大きくなってくると思うんで。</p> <p>それで、今とにかく子供が少ないものですから難しいんですけど、簡単に言って、主体性という観点からいくと、そういうふうにしていったほうがいいんじゃないかなと。</p> <p>大人が、これがいいからやれとか、学校からどうのこうのと言っても、子供はなかなか、興味のないことには動いてくれないと思います。</p> <p>だから、その辺に強力に関わるというのではなくて、サイドから大人と市役所のほうがある程度助言するとか、こうしたほうがいいよと、ちょっとしたことを手伝ってやると、そのぐらいにしておいたほうがいいと思うんですけど、私は。</p> <p>すみません、変なことばかり言いました。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございます。 鈴木委員と高谷委員の大事な視点のお話だったかなと思います。</p> <p>私も鈴木委員の意見には大変賛成で、大学でもボランティア活動する学生たちと一緒に活動している上では、きっかけは就職活動のためであるとか、何かポイントが稼げることであってもいいと思います。</p> <p>ただ、参加したときには、高谷委員がおっしゃる興味を持ってもらえるような取組であることが、継続性を持たせることに、あるいは主体性を持たせることになるかなと思いますので、その視点、両方とも大事だなと思いました。</p> <p>そこで、今回の骨子案の中には、繰り返しますが、楽しいというワードが入っているのは、そこを大切にしているのであって、やはり楽しいからやれるのは、理屈なく関われるということにつながるかなと思います。</p> <p>そして、コロナからの再開という部分においても、鈴木委員がおっしゃったように、止まってしまったところから再開する上では、ここが一つの変えるチャンスでもあるかなとも思いますので、今まで踏襲して、ずっとやられてきたような地域の活動が、一旦コロナで止まってしまったものを再開するときに、新しい形に組み替えていくことはやりやすさがあるかなと思いますので、骨子の一番上のところが、そのような意味で書いてあるかな</p>

鬼頭委員	<p>と思います。</p> <p>すみません。ありがとうございました。</p> <p>今、少し若者の社会参画とか地域参画に、話題は中心になってきましたけれども、それ以外でも、この骨子案のところで、委員の皆様から御質問とか御意見あればと思いますが、鬼頭委員、お願いします。</p> <p>いいですか。私もちょっと勉強不足ですので、言いたいことは言っちゃうタイプなんですけど、こんなこと言ったってということがたくさんあると思うんですけど、素人の考え方で、ちょっと意見を述べさせていただきます。</p> <p>一つは、何らかの行事、私、昨日も防災訓練に行ったんですけど、何だか防災訓練そのものが、地域につながるような防災訓練というより、多分ここから始まって、今はとても大きなところに来ちゃっているところがあるのかも分からないんですけど、この辺のときのほうが、すごく防災訓練をやっているって意識があったんですけど、昨日の場合は、単なる行事というか、私に変に捉えたのか知らないんですけど、こういうものはもっと活かさなきゃいけないところがあるんじゃないかなと。</p> <p>私は役職だから行ったんですけど、これを持ち帰って、本当に小さいところでやらないと、私、昨日の場合のこと言っちゃっていいのか分からないんですけど、私がもし被害者だったら、誰に言ったらいいかなとか、そんな雰囲気、本当に、誰か助けてよ、じゃあ誰に助けてと言おうかという、そんなような捉え方を自分自身がしたんですね。</p> <p>だから、あまりにも大きいところは、すごくやっているみたいですけど、昨日の防災訓練でもやっているぞということは、皆さんあまり知らなかったの。私はちょっとおしゃべりだから、今日防災訓練やってきたんだ、だから携帯がそういえば鳴ったよねというのを言われた人がいたの。私も、聞いている人もいたんだと、それは通じた人もいる。</p> <p>だけど、知らない人は鳴っても、何だかなという感じだったと思うんです。本当に危機感だったら、携帯を見るんですけど、知らない人のほうがほとんどだったということを感じました。</p> <p>それから、その防災のことは、今後やっぱり大事なことから、それぞれやっていかなきゃいけないと思います。</p> <p>それから、もう一つ私が思ったのは、弥富インターを降りると、ちょうど正面に芝桜の弥富という大きな看板、今あるかどうか分からないんですがあるんですね。弥富は芝桜で売り物になるって思って、ずっと一緒に関わって、芝桜も植えてきました。</p> <p>でも、芝桜そのものがここから大きくなっていけばすごくいいんですけど、何も次に進んでいない気がしたので、ある相談をしたんですね。こんな芝桜も、役職の人が集まって植えるんじゃなくて、子供たちに野外活動みたいにして、野外教育にしたらどうなんじゃないかなと思いついたんですけど、そうしたら学校は、忙しい。それから、芝桜のところまで誰が運ぶのって、そういう問題を持ちかけられたんです。</p> <p>何も進まないじゃないかと思ったけど、そこで、そうなんだと言うと、私も閉ざしちゃう。だって、次に私はどうしていいか分からない、自分的なものがあるのね。相談はできる</p>
------	--

んですけど、そうやって言われちゃうと、プシュンとなっちゃうんですね。

だから、いいぞと思うことを言っても、プシュンとなっちゃうから、だんだん意見も言いたくなくなると思うんです。一生懸命やられている人はいいんですけど。

私も意見を言って、次にこうしたらどうだろうという力もないものだから、やっぱり1人が2人、2人が4人とか、そういうふうに賛同していくような形をお伝えする場所というか、伝えていかなきゃ駄目じゃないかなと。この会議そのものに私も出席しても何の意味もないんじゃないかなと思ひまして。

それから、情報を流すというところで、私の友達は、弥富の広報なんか見ていないと。でもスマホで見れるよと言うと、そんなの見れないとか。そう言う人が結構多いんですね。年齢的なものもありますし。

だから、見ているだろう、知っているだろうが多いんじゃないかな。やっぱり私はおばさんだから、おばさん特有の、今度この日これがあるから来てねとか、結構宣伝はするんです。おばさんの独特ないいところはそこなんですけど、書面だけだったら、本当に興味のある人しか見ない、聞かないと思うんです。

だから、市民が行政へ出向じゃなくて、行政の方も出向してきてくれたり、お願いしなきゃ来てもらえないとか、そういうところじゃなくて、もう少し気軽にできるところがあるといいんじゃないかなと。わざわざ市役所まで出かけて、意見を言いに行こうなんて人はいないと思いますし、私もその1人ですので、そう私は思いました。

以上、おばさんの意見のような感じですけど。

あと、もう若い子は、私、お友達、幅広いんですけど、年齢的に。若い子、結構楽しみを待っていると思います。

私に、ねえねえ、今度盆踊りあるのって言われて、あるから来てね、だから何か協力してねと言うと、それはということがある。ということは、何に協力していいか明確なものがないからそうやって言われる。行くのはいいんですけど、何かを手伝うとか、そこまでの意識が止まっちゃっている感じがするんですね。

若いとか年寄りとかという言葉はよくない話なんですけど、半強制的なものも少しはあってもいいんじゃないかなと、本当に今難しいんですよ。言葉一つでも、何とか言葉は駄目だとか、すごい難しい世の中になっちゃったんですけど。でも、犯罪になるようなことまでは言っていないと思うので、多少は言わなあかんことは言っていますけど。

まとまりがない私ですけど、カチカチの会議とかそういうのじゃなくて、何らかの方向を、意見を言うだけではいけないので、考えはしているんですけど、そこら辺をうまいこと、この全部を変えようじゃなくて、絶対一つ実現したということをやれば、一つでもやってくれたという思いが。こんなの全部変えようなんて難しいと思うので、本当に小さなことからやってくださると、こういう会議に来ていても、意義があるかなと思います。どうも失礼しました。

藤井会長

ありがとうございました。鬼頭委員、貴重な御意見ありがとうございました。大事な視点がたくさん入っていた御意見だったなと私も伺わせてもらいました。

	<p>若者だけじゃなく、大人も一緒に、楽しく参加する、興味が持てないと、なかなか継続しないところは一緒だなと思いましたし、鬼頭委員がおっしゃったように、いろいろ考えていらっしゃる方が市民の中にたくさんいらっしゃるんじゃないかなと。</p> <p>ただ、そこがうまく出会えて、協力される方がつながっていくと、その先に実行に移したりですとか、次のステップに進めたりということが行われていくんでしょけれども、なかなかその出会うきっかけですとか、つながる難しさ、機会の得方の難しさがあるのかなと思いましたし、この審議委員の皆さんも、ある意味、そういうつながりになるといいのかなと、私は勝手ながら思ったりしていますけれども。</p> <p>あとは、若者の参画、参加という部分においては、多少の強引さが必要だというのは、いろいろな事業において、一緒に手伝おうよという部分がどれだけか。特に若者であれば、少し引いて、興味があれば、やってみませんかというよりは、いや、やろうよとか、いついつ空いている、おいでよとうまく引き込めると、参加したいという若者は一方では多いんじゃないかなとも思いました。ありがとうございます。</p>
鬼頭委員	<p>マイナンバーをつくると、ポイントがいただけるよと言ったら、本当につくる人がたくさん増えたんですよ。あれ、ポイントがつかなかったら、多分つくっていないと思うんです。ああいうことが多いと思います、私。本当にそれが目の当たりの現実じゃないかなと思うんですけど。魚を何やらで釣るじゃないんですけど、本当にそういうのもありかなと思いますけど。失礼しました。</p>
藤井会長	<p>ありがとうございました。 鈴木委員、お願いします。</p>
鈴木委員	<p>ちょっと時間も短いというか、言いたいことだけ言っていきます。</p> <p>先ほどのお話の中で、すごく共感するんですけど、広報に出したら、それで伝わったと思っちゃって、今の流れで。でも実際は、市民で見ている人は少ないみたいな。なかなか伝わり切らない部分もそうですし、何かこうしたらと思うんだけど、それを行政にぶつけると、それはこうだからできませんみたいな、できない理由をだーっと並べられて萎縮してしまう。多分今までの何かそういう関係性があったのかな。</p> <p>今ちょうど、ヤトミーティングって組織というか、市民協働の肝煎りの今、事業が動き始めているので、ぜひそういうところも、ヤトミーティングで拾えればなというのが一つあるのと、行政もキーワードは楽しくだと思うんですよ。今せっかく意見を言われても、組織として、聞いた人が対処しなきゃいけない、聞いた人の仕事になる、大変だ、今までにないことを自分が聞いたものだから、やらなきゃいけない、応えなきゃいけない、それってしんどいってなっちゃって、これはこういうルールでできませんよと言う。できない理由を常に防波堤として言っちゃって、諦めてもらうことが、変な仕事になっちゃっている。自分の仕事を守るために。</p> <p>それってすごい不幸なことで。だから、それを決して、その受けた人が必ずしもやらな</p>

きやいけないという、その雰囲気も違うし、ぜひ共有してもらって、その話だったら得意だよみたいな人が、組織横断的に対応できたら、すばらしいし、なおかつ、聞いても、それをやるためのことを考えられるだけの知恵を集められる余裕のある組織になってほしいと。

今すぐにはできなくても、こういう条件がそろえば、もしかしたら、それはできるかもしれないですね、もうちょっと待ってくださいねとか、逆にそれができそうだったら、また、そういう仲間を、知恵を、また勉強しておきますよと、ちょっとでもその案件が進む可能性を残しておくよと。

別に言っているほうも、すぐやってくれとか、明日からやってくれって、そういうことではないと思うので、できたらいいねという案に対しては、それは検討してみましようよと。検討しましようよというときも、今だと、どうやって断る、どうやって駄目って言うみたいな暗黙の雰囲気があって、それってもったいないので、ぜひ、まずは受けてほしいというか。

そもそも、受けるかどうかという基準がこの計画なんですよ。一番優先順位の高いことであれば、計画を実現するための、叶う意見であれば、それは聞いてほしいんですよ。

市民の中には無邪気にいろんなことを、やってほしいことをばーっと言う人もいて、それは計画の中で、優先順位を上げることではないですよねみたいなことがあるはずなんですよ。それは計画にのっとって、計画はこういう方向で、はずれるので、申し訳ないですけど、勘弁くださいねか、我慢してくださいねということも説明をきちっとできる。そのための計画であるべきで、声の大きい人が何か急にうわーっと言ったら、そのとおりに動いてぶれちゃうみたいなことであると、計画の意味がないので、判断基準は計画にしてほしいと。そのための今、大事な会議だと思うので。

そういうところと、さっきのDXに戻るんですけど、それを聞いて、どうやってやりましようかねとって考えられる余裕のある組織は、皆さん一人一人の仕事は、タスクを減らしてほしいんですよ。DXで減らしてほしいんですよ。

今一人一人の職員さんが仕事を抱え過ぎ。だから、余裕ない。一つのことを言われた。一生懸命やるの。みんな真面目だから、言われたら一生懸命やる。完璧を目指す。それで、新たなこれ、どうだと言われても、なかなか考える余裕はないと。

それがすごくよく分かったので、今の既存の仕事も棚卸ししてほしいんですよ。計画が決まったら、ずーっとやってきたけど、あんまり計画とそぐわないよねみたいな、やっている意味ないよねみたいなのが、もしそこで判断がつくなら、やめちゃえばいいと思うんですよ。それは何でやめるのと言ったら、いや、計画とはちょっとずれてきたのでとか、これはもう達成したと思うのでいいですよとってやめちゃえば、それに関わっていた仕事というのは減らせるじゃないですか。

だから、まず、やらなくていい仕事を棚卸ししてほしいですよ、計画が動き出したら。それで、ちゃんと余裕ある時間を持って、市民の声にしっかり耳を傾けられる時間をちゃんとつくってほしいと。聞いてくれたら、市民だってもうちょっと言おうかなとか、何か協力することは逆にない？みたいな、市民側でできることも言ったらいいですよ。行政で

できることはここまでです、でも御意見いただいた方も一緒になって、勉強しましょうとか、こういうの逆に教えてくださいみたいなことで、やるための条件を言ってもらったほうが分かりやすいかなと思う。

ということで、行政の皆さん一人一人が楽しく仕事をしてほしいんですよ。自分が考えた企画を楽しい、これ絶対面白い、これ絶対うける、市民にうける、この施策はすばらしい。そしたら、広報にちょっと載せましたというだけで終わらないはずなんですよ。自分の考えた企画をやるんだったら、自分がちゃんと言いますよ。これをやってくれ、これに参加してくれと、近所の人とか自分のコミュニティの中で言いますよ。それぐらいの熱をかけてやれるような企画とかお仕事をぜひ持ってほしいんです、行政の中でも。

本当に今回は、楽しくというのはすごく重要なキーワードになっていると思うので、行政の皆さんも、どうやったらこの仕事を楽しめるかなと。市民からいろんな苦情があっても、それはクエストだと。どうやってこれクリアしていくんだという勢いで、何とか視点を変えて、楽しんでください。

ということを書いて、すみません。途中で失礼します。

藤井会長

ありがとうございました。

高谷委員

大丈夫ですか。

藤井会長

はい、どうぞ。

高谷委員

今の鈴木さんの御意見で、市の方も分かっていると思うんですけど、4年ほど前にも、一応私、市長以下、皆さんにお願いしておいたことが一つありまして、市の中の取組だとか、そういうことに関して、一応フィッシュボーン理論とISO、この2つを取り入れてもらって、行政の中の機関を動かしていただくと、ある程度進めることができると思うんですね。

それはどうしてか言うと、行政の人は、鈴木さんもちよっときついと言われておったけど、私もちよっと言わせてもらうけど、やらないのが仕事って感じの人がかなり多いと思うんですね。それを取り仕切っておるもので、やっぱりISOだとか、ISO以外のフィッシュボーン理論で考えると、誰がいつまでにどういうことをやってというのがありますので、その辺りのことをちよっと少しは取り入れていただいたほうが、この問題について、どなたが責任者かを明確にいただくと、行政ももう少しスムーズにいくんじゃないかなと。それで、いろんな問題に対しても、進めることができる。

それで、ISOのほうは、簡単に言ったら、品質管理なんですよ。それに対しては、やっぱりそれで計画し、やったことに対して、ISOで評価すると。そういう形に行政自体も持って行っていただくと、物事が割と、これは難しいから、置いておくとか、そういう話じゃなくて、進めていけるのが簡単だと思います。

要するに、行政の中でいかなのは、この問題に対しての責任者は誰かを明確にしていな

	<p>いところが問題なんですけど、そこをなるべく、難しいと思いますけど、市長、よろしくお願ひします。</p>
藤井会長	<p>安藤市長、お願いします。</p>
安藤市長	<p>いろいろ御意見いただき、ありがとうございます。</p> <p>一般職が 354 名で、あとは会計年度任用職員で、かなりの職員が弥富市にはいるわけでご覧まして、決して職員、嫌々やっているわけではないとだけは言っておきたいと思ひます。</p> <p>そして、今回の楽しいというキーワードですけど、これは私が常日頃言うことでして、とにかく仕事は楽しくやっぺてくださいよとは言っております。また、明るく、窓口でも明るい対応をしてくださいよと言っていることでして、楽しくやれば、少々の辛いことでも乗り切れるかなと思ひているんですけど、楽しくやるためにも、しっかりと勉強をしていただひて、市民のニーズに正しく楽しく応える、関わることができればなと思ひています。</p> <p>そして、鬼頭委員が言われたように、防災演習、昨日は水防演習でして、ちょっと特別、6年に1回ぐらい、愛知県のほうに回ってくるんですけど、大きな行事でございました。</p> <p>なかなかボランティアとして関わるのも難しいような、規模が大き過ぎたイベントでして、国土交通省が仕切ったイベントでしたので、毎年やっている、海部地方の総合防災訓練とは少し違った訓練でして、あれを地元フィードバックさせるのは難しいかなと思ひたところでございます。</p> <p>そういった防災訓練一つに取りましても、やはり参加した人が、有事の際は楽しいことはないんですけど、少しでも楽しく御参加いただければなと思ひているところでございます。いろんなことをコミュニティで提案してくださいよと言っているんですけど、なかなか新しいことが難しいかなと思ひておりますので、こちら市側としても何か提案できることがあれば、しっかりと提案をさせていただきたいと思ひております。</p> <p>また、そのような中で、昨日の防災訓練では、中学生の方もたくさんいらっしやいまして、汗だくになって、土のう作りをしたりして、参加しておられました。上着を脱いだりして、かなり汗をかいてみえましたが、楽しく過ごしていただひたかなと思ひているところでございます。</p> <p>市の行事でも、中学生の方、また高校生の方に関わりを持っていただひているんですけど、それぞれ私が見る限りでは、楽しく参加していただひているんじゃないかなと思ひておりますので、そのことによって困っている人を助けられる、そんな子供たちになってくれればいいかなと思ひておりますので、できる限り楽しく進めさせていただきたいと思ひます。ありがとうございます。</p>
藤井会長	<p>安藤市長、ありがとうございます。</p> <p>私も挨拶で話をさせていただきましたが、協働における大事さと難しさを今議論の中で</p>

	<p>はされているのかなと思いながら話を聞いていました。お互いのことを知るという部分で、当然、外から見ることと中に入って感じることは違うかなと思いますし、そこをどれだけ、お互いのことを知り合いながら、協力関係、協働を進められるかが大事になってくるかなと思いますし、この総合計画に関しては、「わたしとみんなの未来計画」ということで、弥富市役所の計画だけではなく、この市民全体での計画をつくっていくことが掲げられている計画になりますので、そこを大事に、この委員の皆さんとも議論しながら固めていけるといいのかなと思いました。</p> <p>では、お時間もありますので、審議事項としてお示ししました改正骨子案につきまして、いろんな委員の皆様からいただきました御意見は参考にさせていただきながら、その後、目標ごとに施策等を検討していく、その大事な骨子ということで示させていただきましたが、このような形で進めさせていただくことでよろしかったでしょうか。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>では、改正骨子案のところはそうに進めさせていただきます。</p> <p>その他、この骨子案以外の部分で、委員の皆様から、この場で御質問、あるいは御意見等がございましたら、お願いをいたします。</p> <p>今井委員、お願いします。</p>
今井委員	<p>御意見とかいうよりあれなんですけど、ちょっと宣伝になってしまうんですが、鈴木さん、帰られちゃったんですけど、今月の31日から、名鉄一宮店で尾張文鳥博というイベントが開催されます。これも結構、一宮の方って、弥富は金魚の町というのは御存じなんですけど、文鳥の町というのを知っている方は少なく、今回そのフロアマネージャー、名鉄一宮店のフロアマネージャーの方に、いや、文鳥は弥富も有名だよって話をしたんですよ。そしたら、次回ぜひ、文鳥博というより、最初は小鳥マルシェという題だったんですけど、急に尾張文鳥博という、名前も弥富市にぴったりの名前にしていただいて、1週間かけて開催されるんですけど、また、よかったら、いろいろ文鳥グッズとかも売っていますし、文鳥にまつわることで、多分私たちが知らないことっていっぱいあるんじゃないかなと思うので、またよかったら、遊びに来てください。お願いします。</p>
藤井会長	<p>大事な情報提供をありがとうございます。</p> <p>それでは、次の審議事項に移らせていただきます。</p> <p>次第の5、その他につきまして、事務局のほうからよろしく願いいたします。</p>
事務局（伊藤）	<p>5 その他</p> <p>それでは、次回の審議会の御案内をいたします。</p> <p>第5回弥富市総合計画審議会は、7月31日月曜日午後1時30分より開催いたします。</p> <p>次回は、計画書に掲載する現状、課題や、施策等について案をお示しし、御審議いただく予定であります。</p> <p>正式な開催通知につきましては、改めてお送りさせていただきますので、よろしくお願</p>

<p>藤井会長</p>	<p>いいいたします。 事務局からは以上となります。</p> <p>ありがとうございます。 その他の事項につきまして、御質問等はございますでしょうか。 よろしかったでしょうか。ありがとうございます。 委員の皆様の貴重な意見をたくさん頂戴いたしまして、骨子案のところの審議というものが十分尽くせたかなというふうに思います。拙い進行で申し訳ございませんでしたけれども、進行を事務局のほうにお返しさせていただきます。 ありがとうございました。</p>
<p>事務局（佐藤企画政策課長）</p>	<p>藤井会長をはじめ、各委員の皆様、本当にありがとうございました。 本日は、前期基本計画からの改正骨子案について慎重審議を賜り、感謝申し上げます。 以上をもちまして、第4回弥富市総合計画審議会を閉会させていただきます。委員の皆様ありがとうございました。</p>